

メールマガジン 埼玉県議会



発行：埼玉県議会



No.309 2020.6.30

**県議会テレビ番組「こんにちは県議会です」
6月28日(日曜日)放送「副議長・議会運営委員長インタビュー」**

県議会テレビ広報番組「こんにちは県議会です」(テレビ埼玉)では、各定例会の様など県議会に関するさまざまな情報を放送しています。

今号のメールマガジンでは、ご覧になれなかった方のために、28日(日曜日)に放送した「副議長・議会運営委員長インタビュー」の内容をお伝えします。



副議長インタビュー



議運委員長インタビュー

☆放送スケジュールなど詳しくは、県議会のホームページをご覧ください。≫

INDEX

**県議会広報**


こんにちは県議会です
「副議長・議会運営委員長インタビュー」

- 小久保憲一 副議長
- 須賀敬史 委員長

本会議テレビ中継

**議事堂の花**

生け花のご紹介

 県議会広報

【こんにちは県議会です「副議長・議会運営委員長インタビュー」】

〈小久保憲一 副議長〉

昭和49年生まれの46歳
埼玉県議会自由民主党議員団所属
西第13区、滑川町・嵐山町・小川町・ときがわ町選出
平成26年、県議会議員初当選(現在3期目)
環境農林委員長、福祉保健医療委員長、自然再生・循環社会対策特別委員長などの要職を歴任
今年3月、埼玉県議会副議長に就任

副議長 県民の皆さま、こんにちは。このたび副議長という大役を務めさせていただきまず小久保憲一です。大変光栄でありますとともに、その重責に身の引き締まる思いであります。

県議会の代表である議長を補佐するという重要な役割を担いますので、県民の皆さまのご負託に応え、職責をしっかりと果たすべく、全力で取り組んでまいります。どうぞよろしくお願いを申し上げます。



—政治家を志したきっかけをお聞かせください。—

副議長 実は私の祖父も県議会議員(第75代埼玉県議会議長 小久保太郎氏)を務めさせていただきました。子どものころから祖父の背中を見て育ち、県民に真摯に向き合う祖父に尊敬の念を抱いたのがきっかけですね。

その後、国会議員の秘書を経験させていただき、また、地域の方のご支援もいただいて、政治家を目指すことになりました。

—おじいさまの背中を見てとのことですが何か感じるものがあつたのですか。—

副議長 はい。私の家は3世代同居でありましたので、祖父と一緒に暮らしておりました。祖父は家庭の中に政治の話は一切持ち込まない人であったのですが、地元の方がわが家にこられまして、祖父にいろんな相談をしておられました。

頼ってくださる方の信頼に応え、親身に対応する祖父の姿を見て、すごいなと子ども心に思っていました。政治家になって思い起こしたとき、祖父の、住民に寄り添う姿勢を忘れないように思いました。

—他にもエピソードはありますか。—

副議長 小学校の社会科見学で県議会議事堂に来る機会がありまして、初めて祖父の職場を見ました。議員の役割を知り、政治家の仕事をとて身近に感じた瞬間でした。

議事堂の一角に歴代の議長の写真が並んでいたのですが、その中に祖父の写真を見つけたときは、とても誇らしく思いました。そして自分もいつか政治家になりたいと思うようになりました。

—副議長はこれまでもさまざまなお仕事に取り組んでこられたと思います。その中で特に印象に残っていることは何でしょうか。—

副議長 パラリンピック選手に対する埼玉県の支援の在り方が、他県と比較して遅れていました。地元のパラリンピックを目指す方に話をお伺いしますと、より支援が手厚い他県で練習したり活動をしているとのことでした。これでは有望な選手が他県に流出してしまうと思い、なんとか解決しなければならぬと思いました。

—それではどうされたのですか。—

副議長 私は、県議会定例会の一般質問で執行部に対して、その現状を訴え支援の拡充について質問いたしました。その後、最終的に、手厚い支援に拡充され、新たに医科学サポートなども行われることになり、地元の関係者にお伝えしたところ、大変喜んでいただきました。「励みになります」という言葉をもらいました。



今後も継続的な支援が必要だと思いますし、さらに力を尽くしていきたいと思っています。このことは、自分の中では特に印象に残っております。

—これからの議会活動で力を入れていきたいことについてはいかがですか。—

副議長 これまで福祉・保健・医療の常任委員を3度経験し、委員長も務めさせていただきました。今後もこの分野に力を入れていきたいと思っています。

埼玉県は、人口当たりの病院のベッド数や医師数なども全国的に極めて少ない状況です。県民の皆さま方が安心できるよう、地域における医療体制をきちんと整備していくことはとても重要です。

平時にどれだけ対応しておくかが、今回のような感染症まん延という有事に大きく影響してきますので、早急かつ継続的な対応が必要です。こういった分野に議会としての役割を果たしていくことに尽力したいと思っています。

—ここからはプライベートについても伺ってまいります。趣味という点、どのようなことが挙げられますか。—

副議長 ランニングが挙げられますね。毎日とはいきませんが、10キロぐらいは走っています。結果、食事制限をしないで15キロ体重を落とすことも実はできたんですよ。あと、地元小川町において和紙マラソン大会にも参加いたしました。



走っていると皆さんからは声援をいただきますし、周りの方を見ていますと、自然に触発をされて良い運動になっています。感染症の影響で今年の大会がどうなるかはまだ分かりませんが、今後も参加したいと思っています。

—マラソン大会は、何キロの部をエントリーするのですか。—

副議長 大体10キロぐらいを、今、走っておりますけど、今後は是非、これをハーフ、そしてフルマラソンできればなと思っています。それには、まず練習が必要かなと思っています。

—練習の頻度も結構多いですね。—

副議長 本来は夜走りたいところなんですけど、私の地元は自然が多く、

特に動物も出沒いたしますので、基本的には朝、時間帯を見計らって走っております。

—朝走るとその後の一日がとってもいい気持ちで迎えられますよね。—

副議長 そうですね。とは言いながら、疲れてしまいますので、議員の仕事に影響ないようにしたいと思っております。



—ちなみに10キロほどのくらいで走られるのですか。—

副議長 最近のタイムですと、45分で走りました。ですから、1キロ5分ペースを目指してやっております。

—速いペースですね。—

副議長 はい。できればこれを30分くらいに縮められればなと思っております。

—それだけ継続して練習ができるのはすごいですね。—

副議長 もちろん仕事が大事でございますので、その合間で走るように心掛けたいと思っております。

—健康的な趣味があるということで、その他にはどうですか。—

副議長 映画鑑賞ですね。歴史ものが大好きでよく見っていますが、特にこだわりがあるわけではありませんので、いろんな映画を見てリラックスしています。

—座右の銘はありますか。—

副議長 「意志ある所に道は通じる」という言葉です。人間には、限界というものはない、限界を作るのは自分自身だと思っています。ですから、私はどんなことでも、道に向かって進むことで限界というものはないものだと思って、いつも行動しております。そして、それが議員の仕事にも通じるものと思っています。

—最後に、今後の議会運営について、お考えをお聞かせください。—

副議長 感染症対策や経済活動の支援を始めとする多くの課題が、埼玉県には山積しております。この課題に対して、議会として迅速かつ手厚い支援が必要だと思っております。

私は「声なき声に耳を傾ける」という言葉を忘れないようにしています。今回の緊急事態措置によって見過ごされそうになっているもの、後回しにされているものに対しても、きちんと目を配り、県民の皆さま方が安心安全に暮らせますように、県議会としてしっかり対応していきたいと思っております。また、去年の台風19号からの復興にも、より一層取り組まなければならないと思っております。

二元代表制の一翼を担う、私たち県議会が執行部のチェック機関としてのみならず、積極的かつ能動的な責任を果たしていくことが大変重要です。田村議長のもと、県政のさらなる発展のため全力を尽くしてまいります。

〈須賀敬史 議会運営委員長〉

—自己紹介と、ごあいさつをお願いいたします。—

委員長 南第19区・蕨市選出の、須賀敬史です。この度、議会運営委員長という要職を務めさせていただくことになりました。埼玉県発展のために全力を尽くしてまいりますので、よろしくお願いいたします。



—議会運営委員会の役割についてはどのようにお考えでしょうか。—

委員長 県議会は、県の条例や予算など、県民の皆さまの生活に直接関係する数多くの議案を審議し議決しております。議会運営委員会は、議会を円滑かつ効率的に進行するために必要な事項を協議し、意見調整を図る場として設置された委員会です。その役割はとても重要だと考えております。

—議会を円滑に進行するための調整役・Aということですね。—

委員長 県議会の議員定数は93名です。限られた時間の中で、これだけの人数が活発に議論を行い、効率よくスムーズに本会議を進めていくためには、事前の連絡や調整が欠かせません。

—6月15日から6月定例会がはじまりましたが、議会運営委員会はいつ開かれたのでしょうか。—

委員長 まずは開会前の6月8日に開かれました。そして、開会後も、本会議の前や休憩時間中に委員会が開かれています。

—どのようなことを話し合われたのですか。—

委員長 開会前は、6月定例会の日程や質疑質問者の会派ごとの割り振りなどについて協議を行いました。そして、定例会中には、意見書の取扱いや採決の方法などを協議します。



—さまざまな事柄について協議されるのですね。—

委員長 知事や議員から提出された条例や予算などの議案、県民の皆さまから提出された請願などを、どの委員会に付託し審査すべきか、といったことについても協議をしています。

—最後に、委員長としての抱負と決意をお聞かせください。—

委員長 県議会は県民の代表として、皆さまの声を県政に反映させるという大きな使命を担っています。そのため、県議会には活発な議論を通じて、県の施策をより良いものと



し、県民の負託に応えるということが求められています。

このたびの感染症への対応など早期の対応が求められる議案もあります。議会運営の調整役として、円滑で効率的な議会運営が行われるよう、委員の皆さんのご協力をいただきながら、委員長としての責務をしっかりと果たしていきます。

【本会議のテレビ中継】

皆さまに広く議会の活動を知っていただくため、本会議の様子をテレビ埼玉で中継します。

本日20時から是一般質問3日目の録画中継が放送されますので、ぜひご覧ください。

【録画中継】

- 一般質問 3日目：6月30日(木曜日)20:00～21:00
 - 一般質問 4日目：7月1日(水曜日)20:00～21:00
 - 一般質問 5日目：7月2日(木曜日)20:00～21:00
- ※録画中継は、1日分を60分に編集して放送するダイジェスト版です。

【生中継】

- 閉会日(委員長報告まで) 7月3日(金曜日)10:00～12:00

[☆詳しくは、県議会のホームページをご覧ください。≫](#)

[▲トップへ](#)

議事堂の花

このコーナーでは、議事堂ホールに飾られた生け花をご紹介します。
【協力 埼玉県いけばな連合会】



- ◆ 展示期間
6月2日～6月5日
- ◆ 作者
桂古流 新藤華盛様
- ◆ 花材
朝鮮槿、竹島百合

◇◆生け花の作者の方にお聞きしました！◆◇



〈桂古流 新藤華盛様〉

Q:上から見ると井戸のような花器ですね。朝鮮槇の上品な深緑色と合
いとても涼しげです。

A:日々の営みから着想を得て表現することが生け花の醍醐味です。今
回の作品では、釣瓶と滑車を用いて井戸を花器に見立てて生けました。
釣瓶の中には玉砂利を敷いています。

Q:竹島百合の蕾は、通常の百合と比べて小さくふっくらとしていますね。

A:竹島百合は、開花すると小ぶりで肉厚な花を咲かせます。鮮やかな
黄橙色のかわいらしい花なので、咲いた姿もぜひご覧ください。
6月6日は生け花の日ですので、この週に生けられたことをうれしく思い
ます。

☆現在展示中の作品や過去の展示作品は、県議会ホームページでご
覧になれます。》

[▲トップへ](#)

【注意】

●メールマガジンにおいて氏名の一部にJIS規格第1・第2水準にない文
字がある場合、第1・第2水準の漢字で表記しています。

【お問い合わせ】

●[「メールマガジン埼玉県議会」の登録・解除はこちらから》](#)

※登録事項(メールアドレスなど)を変更する場合には、お手数ですが、
変更前のメールアドレスを一度解除してから新規に登録してください。

●「メールマガジン埼玉県議会」についてのお問い合わせ・感想はこちら
まで！

E-mail a6250-03@pref.saitama.lg.jp

埼玉県議会事務局政策調査課

〒330-9301 さいたま市浦和区高砂3-15-1 電話 048-830-6257/FAX 048-830-4923

